

## 9月5日(金)

9:00

開会の辞

9:05 - 10:50

シンポジウム

オピオイド研究の進歩と展望(鎮痛作用を目的とした基礎研究の進歩と展望)

座長: 倉石泰、南雅文

9:05 - 20

Tyr-Pro-Trp-Gly-NH<sub>2</sub> (Tyr-W-MIF-1) 誘発性抗侵害作用における  $\mu_2$  オピオイド受容体の関与

渡邊廣行<sup>1</sup>、米澤章彦<sup>1</sup>、溝口広一<sup>1</sup>、櫻田誓<sup>2</sup>、櫻田司<sup>2</sup>、櫻田忍<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東北薬科大学機能形態学教室、<sup>2</sup>第一薬科大学学生化学教室)

9:20 - 35

CRF 受容体アゴニストの鎮痛効果に及ぼすオピオイドペプチド加水分解酵素阻害剤の影響

岡哲雄、小坂賢也、新野康弘、岩尾佳代子、赤堀一也、高橋滋、脹鵬、金幸祿、中林大、荒井美治、小林広幸、吉川正信(東海大学医学部薬理学教室)

9:35 - 50

Comparison of pharmacological profiles of morphine, fentanyl and oxycodone in ferrets

Arief Nurrochmad, Minoru Narita, Masahiko Ozaki, Yoshinori Yajima, Tsutomu Suzuki (Department of Toxicology, Hoshi University School of Pharmacy and Pharmaceutical Science)

9:50 - 10:05

選択的セロトニン再取り込み阻害薬フルボキサミンの鎮痛作用

内田邦敏、本多基子、田辺光男、小野秀樹(名古屋市立大学大学院薬学研究科中枢神経機能薬理学)

10:05 - 20

Vincristine 誘発痛覚過敏モデルマウスに対する Cytidine 5'-diphosphocholine (CDP-choline) の効果

遠藤和樹<sup>1</sup>、早川弘之<sup>1</sup>、亀井淳三<sup>2</sup> (<sup>1</sup>ヤマサ醤油株式会社医薬・化成品事業部薬品化学、<sup>2</sup>星薬科大学薬物治療学)

10 : 20 - 35

Vincristine 誘発痛覚過敏マウスにおける DAMGO 誘発抗侵害効果の減弱に対する  
脊髄 NO-cGMP 経路の関与

田村直也、斎藤顕宜、亀井淳三（星薬科大学薬物治療学教室）

10 : 35 - 50

カラゲニン炎症性痛覚過敏に対する鍼鎮痛効果

- 末梢のオピオイド受容体の関わりについて -

関戸玲奈、田口辰樹<sup>1</sup>、石丸圭荘<sup>1</sup>、北小路博司、咲田雅一<sup>2</sup>（明治鍼灸大学臨  
床鍼灸医学 教室、<sup>1</sup>明治東洋医学院専門学校、<sup>2</sup>明治鍼灸大学外科学教室）

10 : 50 - 11 : 05

休憩

11 : 05 - 12 : 05

特別講演 1

座長：岸岡史郎

Opioid drugs as reinforcing stimuli in rhesus monkeys

Dr. Gail Winger (University of Michigan, Ann Arbor, Michigan, USA)

12 : 05 - 13 : 05

昼食

13 : 05 - 14 : 05

特別講演 2

座長：山本経之

Anti-depressant activity of delta opioid receptor activation

Dr. James H. Woods (University of Michigan, Ann Arbor, Michigan, USA)

14 : 05 - 15 : 05

特別講演 3

座長：櫻田司

Substance P (SP) and its bioactive fragment SP(1-7) in relation to opioid tolerance and  
withdrawal

Dr. Fred Nyberg ( Uppsala University, Uppsala, Sweden )

15 : 05 - 25

休憩

15:25 - 18:25

## シンポジウム

慢性疼痛発現機構の解明とその治療への最近のアプローチ

座長：成田年、溝口広一

15:25 - 40

がん性疼痛患者におけるモルヒネの至適投与量設計に関する研究

櫻田大也<sup>1</sup>、川口啓之<sup>1</sup>、江口久恵<sup>1</sup>、遠藤一司<sup>1</sup>、田中克彦<sup>2</sup>（<sup>1</sup>国立札幌病院薬剤科、<sup>2</sup>国立札幌病院臨床研究部）

15:40 - 15:55

末梢性神経因性疼痛における薬物の効果

・薬理的疼痛機序判別試験の結果から

林田真和\*、有田英子、関山裕詩、斎藤雄一郎、碓井久子、目野亜希、澤村成史、折居亮、矢島直、花岡一雄（東京大学医学部附属病院麻酔科痛みセンター、\*現・東京大学医科学研究所附属病院手術部）

15:55 - 16:10

脊髄侵害伝達機構におけるビッグダイノルフィンの二相性効果

丹野孝一、江刺晶央、中川西修、新島富紀枝、只野武（東北薬科大学薬理学教室）

16:10 - 25

モルヒネの耐性および身体依存形成に及ぼすホルマリン疼痛負荷の影響

マウス血清コルチコステロンを指標とした検討

清水典史、岸岡史郎（和歌山県立医科大学薬理学教室）

16:25 - 40

抗悪性腫瘍薬 vincristine 誘発痛覚過敏発現における脊髄 NO-cGMP 経路の関与

斎藤顕宜、田村直也、亀井淳三（星薬科大学薬物治療学教室）

16:40 - 17:00

マウスの帯状疱疹痛と一酸化窒素

佐々木淳、高崎一郎、植田陽子、安東嗣修、野島浩史、倉石泰（富山医科薬科大学薬学部薬品作用学）

17:00 - 20

脊髄内 P2 プリン受容体による痛みの調節

中川貴之、張楠楠、岡田麻衣子、福井真人、南雅文、佐藤公道（京都大学薬

学研究科生体機能解析学分野)

17:20 - 40

末梢炎症に伴う疼痛発現機序の解析

— 脊髄痛覚回路の可塑性と神経栄養因子 —

古江秀昌、又吉達、中塚映政、吉村恵 (九州大学大学院医学研究院統合生理学)

17:40 - 55

神経因性疼痛ならびに慢性炎症性疼痛発現における脊髄を介した疼痛伝達経路の相違

矢島義識、成田年、鈴木勉 (星薬科大学薬品毒性学教室)

17:55 - 18:15

神経因性疼痛における可塑的変調と治療戦略

井上誠、植田弘師 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科分子薬理学)

18:15 - 25

総合討論

18:30 -

懇親会 (新館 ステラ)

## 9月6日(土)

9:00 - 12:00

シンポジウム

オピオイドの新しい分子標的とゲノム解析

座長：植田弘師、曾良一郎

9:00 - 35

オピオイド受容体遺伝子多型と神経精神疾患

曾良一郎<sup>1, 2</sup>、畑春実<sup>1</sup>、渡邊秀和<sup>1</sup>、井手聡一郎<sup>2, 3</sup>（<sup>1</sup>東北大学大学院医学系研究科神経科学講座精神神経生物学分野、<sup>2</sup>(財)東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究分子精神医学研究部門、<sup>3</sup>京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野）

9:35 - 10:00

快情動発現におけるオピオイドシステムの役割：ドーパミンシステムとの比較

池田和隆、高松幸雄、高橋雄大（財団法人東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門）

10:00 - 25

痛覚感受性の個体差に関わる遺伝学的解析

小出剛、古瀬民生（国立遺伝学研究所マウス開発研究室）

10:25 - 50

オピオイドとグリア細胞の新展開

成田年、鈴木勉（星薬科大学薬品毒性学教室）

10:50 - 11:05

オピオイドへの医療薬学的アプローチ

平井みどり<sup>1</sup>、沼田千賀子<sup>1</sup>、山上友子<sup>1</sup>、八木敬子<sup>1</sup>、寺岡麗子<sup>2</sup>、松田芳久<sup>2</sup>、安保博文<sup>3</sup>（神戸薬科大学臨床薬学研究室<sup>1</sup>、製剤学研究室<sup>2</sup>、国家公務員共済六甲病院<sup>3</sup>）

11:05 - 40

オピオイド研究2003年の新しい動向

植田弘師（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

11:40 - 12:00

総合討論

12:00 - 10

休憩

12:10 - 13:10

ランチョンセミナー

座長：鈴木勉

いのちのメッセージを伝える 在宅ホスピスケアの実践から  
内藤いづみ先生（ふじ内科クリニック）

13:10 - 14:10

昼食

14:10 - 15:10

シンポジウム

オピオイド研究の進歩と展望（臨床におけるオピオイド研究の進歩と展望）

座長：花岡一雄、小川節郎

14:10 - 25

オピオイド併用硬膜外バルーン式持続注入器の術後使用中止症例の検討

関山裕詩<sup>1</sup>、角田俊信<sup>2</sup>、鎮西美栄子<sup>1</sup>、有田英子<sup>1</sup>、花岡一雄<sup>1</sup>（東京大学医学部  
付属病院麻酔科痛みセンター<sup>1</sup>、虎の門病院麻酔科<sup>2</sup>）

14:25 - 40

μオピオイド受容体遺伝子多型と覚醒剤依存との相関

井手聡一郎<sup>1,2</sup>、小林秀昭<sup>1</sup>、田中慶子<sup>1</sup>、沈昊偉<sup>1</sup>、氏家寛<sup>3</sup>、関根良統<sup>3</sup>、尾崎紀夫<sup>3</sup>、稲田俊也<sup>3</sup>、原野睦生<sup>3</sup>、小宮山徳太郎<sup>3</sup>、山田光彦<sup>3</sup>、伊豫雅臣<sup>3</sup>、糸川昌成<sup>3</sup>、池田和隆<sup>1</sup>、曾良一郎<sup>1,3,4</sup>（<sup>1</sup>（財）東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門、<sup>2</sup>京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野、<sup>3</sup>薬物依存ゲノム解析研究グループ（JGIDA）、<sup>4</sup>東北大学大学院医学系研究科神経科学講座精神神経生物学分野）

14:40 - 55

モルヒネの至適投薬時刻の設定を指向した研究

松尾綾香、吉田都、大戸茂弘、藤秀人、樋口駿（九州大学薬学府薬物動態学講座）

14:55 - 15:10

Antishivering action のための塩酸ペチジン術後使用の季節性変動についての検討

関山裕詩<sup>1</sup>、角田俊信<sup>2</sup>、鎮西美栄子<sup>1</sup>、林田真和<sup>1</sup>、有田英子<sup>1</sup>、花岡一雄<sup>1</sup>（東京大学医学部付属病院麻酔科<sup>1</sup>、虎の門病院麻酔科<sup>2</sup>）

15:10 - 20

休憩

15:20 - 17:05

シンポジウム

オピオイド研究の進歩と展望（オピオイドによる情動行動および耐性への影響）

座長：吉川正明、鵜飼良

15:20 - 35

植物タンパク質由来 オピオイドペプチドの中枢作用

園田壮司<sup>1</sup>、楊樹長<sup>1</sup>、土山直美<sup>1</sup>、高橋正克<sup>2</sup>、吉川正明<sup>1</sup>（京都大学大学院農学研究科<sup>1</sup>、長崎大学教育機能開発センター<sup>2</sup>）

15:35 - 50

モルヒネ禁断時の不快な精神症状における extended amygdala の役割

富士尾まゆみ、山本梨絵、中川貴之、南雅文、佐藤公道（京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野）

15:50 - 16:05

内因性 $\mu$ -オピオイド受容体作動薬 endomorphin-1 のマウス認知機能モジュレーターとしての作用

間宮隆吉、加藤寿規、奥田亜美、鵜飼良（名城大学薬学部薬品作用学教室）

16:05 - 20

Morphine 誘発報酬効果発現に対する脊髄内 protein kinase C の役割

大江公晴<sup>1,2</sup>、成田年<sup>2</sup>、久保田千晴<sup>2</sup>、芝崎真裕<sup>2</sup>、矢島義識<sup>2</sup>、山崎光章<sup>1</sup>、鈴木勉<sup>2</sup>（富山医科薬科大学麻醉科学講座<sup>1</sup>、星薬科大学薬品毒性学教室<sup>2</sup>）

16:20 - 35

モルヒネ暴露による P 糖タンパク質機能変化

黄倉崇、小澤匡宏、井部路子、山田静雄、木村良平（静岡県立大学薬学部薬剤学教室）

16:35 - 50

$\mu$ -Opioid 受容体作動薬の慢性処置による脊髄内  $\mu$ -opioid 受容体のトラフィックング機構およびアストロサイトの形態変化の解析

鈴木雅美、成田年、鈴木勉（星薬科大学薬品毒性学教室）

16:50 - 17:05

モルフィン関連化合物の構造と耐性発現の関連性について：マウス脳内単回投与

による検討

石田隆、大石哲也、塚原邦浩、山野茂、竹之下玲子、喜多秀樹、土岐智（福岡大学薬学部衛生化学教室）

17：05

次世話人挨拶

17：10

閉会の辞